



連載

若手技能・技術者レポート 塑性加工の次代をつくる挑戦者

07

(株)平安製作所

Fukushima Kazunori

福島和則

1991年2月26日

趣味はDIY。ホームセンターや

100円ショップで使えるような材料を集める。

最近の作品は車の中で使うドリンクホルダー。

現在そのホルダーを固定する器具(ブラケット)

を製作中。

苦しいときこそ自分で考え 前に進む

平安製作所(滋賀県高島市)は自動車部品を主に製造しているプレス加工メーカーだ。独自の工法転換でコスト削減と、納期短縮を実現。また、インドネシアの部品メーカーとの事業連携で海外の日系自動車メーカーへの部品供給もカバーしている。

そんな同社では、生産部プレスグループ所属の福島和則さん(25歳)と技術部開発技術グループに所属する鬼頭直宏さん(29歳)の2人が現場で活躍している。入社の際も、業務内容も全く違う2人だか、日々の業務に取り組むうえで似通った点があるようだ。

フィンガーに翻弄されつつ奮闘

福島さんは入社以来、生産部プレスグループに所属。高校時代は甲子園を夢見て野球に熱中。塑性加工への知識は全くないままの入社だった。

配属され、最初に担当したのは800tトランスファプレス。上司に付いて仕事を覚え始めたがその矢先、勤務体系が大きく変わった。日勤・夜勤の2交代制に変わり、上司が夜勤に回ることに。日中の800tトランスファプレスは福島さんに一任されることになり、その日から悪戦苦闘が始ま

った。

トラブルの頻発で思うように製造できず、後工程から催促された。中でも一番福島さんを困らせたのはフィンガーの微調整だった。

「本来フィンガーはトランスファプレスの中で次々に加工材を掴み、次工程に送ります。しかし何かの拍子にずれると、プレス機械が停止してしまうのです。ハンマーなどでたたいたりして位置を直すのですが、経験と慣れが必要。毎回かなりの時間がかかりました」

日勤の時間帯で質問できるのは生産部の統括部長のみだがフィンガーの微調整程度で呼ぶことはできない。何事もできる限り自分で対処するしかない、と心を決めた。

プレッシャーに苦しみながらもじっくり自分で原因を考え手を動かした。そのおかげで製造技術は確実に自分のものになった。

そして、2年前同社が初めて導入した2,000tサーボトランスファプレスの担当者となった。何事も粘り強く取組む姿勢が評価されての大抜擢だ。現在は、主に2,000tサーボトランスファプレスと今まで担当してきた800tトランスファプレスを担当し新人の指導も行う。

そんな福島さんの最近の課題は、生産現場の改善だ。現場が乱雑になり段取りにムダな時間がかかっていると感じるのだ。

「現場の全員を巻きこんで皆が働きやすい職場



Kitou Naohiro

鬼頭直宏

1987年6月16日

ボロボロのバイクを塗装し直し、修理して乗り回すのが楽しい。最近では東尋坊まで1人でツーリングしてきたが、場所が場所だけに職場の人みんなに心配されてしまった。



会社名 (株)平安製作所
代表者名 荒木邦彦
所在地 〒520-1823
滋賀県高島市マキノ町中庄 464
TEL 0740-27-1271
資本金 6,000万円
従業員数 170名

にしたいです」

「できない」だけは絶対言わない

鬼頭さんは技術部開発技術グループに所属。新たな工法開発と試作金型の設計およびプレストライを担当している。

鬼頭さんと同社を結んだ縁は、2011年のリーマンショック。大学の工学部で機械加工について学んでいたが、就職先がみつからず苦勞の果てに同社に就職を決めた。

「もともと車やバイクが好きだったので、それらの部品に関われるのはうれしかった」

苦しい就職活動を乗り越え興味のある分野に就職した鬼頭さんは金型の立ち上げを皮きりに日々積極的に業務にあたった。

ところが入社して3年目、ある金型の立ち上げにかかわり、大きな壁にぶち当たった。

金型はある自動車の車体部品のもの。ところが出来上がった金型を何度トライしても規定の寸法が出ないのだ。残業の日々が続いた。

「最後は部総出です。明日にもプレス機械に載せたいのにまたダメだと追い詰められました」

部署一丸となって取り組んだ結果、何とか量産にこぎつけることができたが、このとき鬼頭さんは2つのことを学んだ。まず1つはできない、と決して言わないこと。そして綿密な計画を立てることだ。

「弱音を吐かず必死に取り組めばいつかはゴールにたどり着けると知りました。また、計画の重要さも理解しました。今までは来月あたりには、来週あたりには、というおおまかな計画しか立てなかった。そのおかげで時間がなくなっていたんです」

鬼頭さんの現在の目標は、「もう少し頭を柔らかく」物事に取り組むこと。どうやってもよい工法が思いつかず上司に相談すると「そんなの簡単やろ」とアツという間に回答を出されてしまう。自分の考え方が硬かったと反省する日々だ。

「がむしゃらに経験を積み、また固定観念を排して考える訓練を重ねるしかありません」

道のりは長いが、「できない」は言わない。

共通する「自分で考え行動する」という才能

指導をする、技術部部長の田邊晃氏は2名の共通点を「自分で考え行動する力」だと語る。

「自分の頭で考えどンドン行動する人は新しいものを生み出せる。そういう人にはチャンスを提供し、成長してもらいたい」

現在2人は金属プレス加工技能検定などの資格取得勉強を開始。社のサポートを受けながら合格を目指す。自ら学ぶものにはチャンスを与える。同社の人材教育の方針が両者の飛躍を後押ししている。

(鎌池 愛)